

コロナ感染症流行前後の血液培養検査実態

岩切 雄也¹⁾ 佐多 章¹⁾ 那須 一生²⁾ 川原 康彦²⁾ 有馬 栞莉³⁾ 藤井 有沙¹⁾ 釘宮 弘子¹⁾

1) 県立宮崎病院 2) 県立延岡病院 3) 県立日南病院

「はじめに」血液培養検査は感染症診療において正確な診断と治療のために大きな役割を持つが、新型コロナウイルス感染症(以下コロナ)の流行により感染症診療・検査は大きく変化している。今回県立病院におけるコロナ流行前後の血液培養検査実施状況を調査したので報告する。

「対象施設・対象期間」対象施設は 3 県立病院(宮崎病院,延岡病院,日南病院),対象期間は 2019 年 1 月から 2021 年 12 月までの 3 年間。

「調査項目」総提出セット数,1000 患者・日あたりの採取セット数,1000 新入院患者あたりの採取セット数,複数セット採取率,陽性率。

「結果」検体数ベースの結果中央値を示す。2019 年は総提出検体セット 2597(1536~5619)1000 患者・あたりの採取セット数 25.1(18.8~38.1),新規入院 1000 人あたり採取セット数 323(310~499),複数セット採取率 95.7%(87.0~96.0),陽性率 9.1%(7.8~11.0)。2020 年は総提出検体セット数 3282(1

467~4397)1000 患者・あたりの採取セット数 34.6(25.1~45.1),新規入院 1000 人あたり採取セット数 425(365~476.5)複数セット採取率 98.0%(89.0~99.0)陽性率 10.0%(6.6~15.4)。2021 年は総提出検体セット数 3877(1655~5036),1000 患者・あたりの採取セット数 40.5(25.0~42.1),新規入院 1000 人あたり採取セット数 488(410~532.1)複数セット採取率 97.5%(88.0~98.0)陽性率 10.8%(6.1~14.9)であった。

「考察」総提出検体数はコロナ流行後に減少傾向であるが,1000 患者・日あたりの採取セット数はむしろ増加している。既報と比較しても良好な数値であり,流行の影響はないと思われる。コロナ流行による感染症診療への関心の高まりが一因と考える。施設間でばらつきがあるため,今後も定期的に調査を行い,検査の向上につなげたい。

県立宮崎病院 (0985-24-4181 内線 2955)